

まちの歴史

# 焼け残った重林寺

今でこそ重林寺は川越街道と劇場通りの合流点に面した喧噪の中にあります。川越街道が現在のようになり整備される以前は、畑や雑木林に囲まれた静かな環境にあった寺であることが想像されます。

重林寺は明王山不動院と号し、真言宗豊山派に属します。開基は不明ですが法印秀峯という人が、この寺の本尊である不動明王の威容に感じて住職になったのを開祖としています。時は慶安3年(1650年)4月23日ですから、今から約350年前の徳川3代将軍家光の時代のことです。

その後8代将軍吉宗の時代の享保年間には第6世法印猷寿という和尚が茅葺きの旧本堂などを建立、寛政年間には第9世快音和尚が茅葺き庫裏42坪と茅葺き堂および梵鐘を、文政年間(1818年)には第10世快秀和尚が冠木裏門(現在の表門)を建立しました。現在の本堂は昭和4年に第16世真道僧正によって新築されたものです。

重林寺の本尊は不動明王の等身大の尊像で、制多迦(セイタカ)と毘迦羅(コンカラ)の2童子を側侍としています。不動明王の身体は青黒く頭に蓮華を戴き、右手に利剣を持ち、左手には絹索(大綱)を取り、うしろには火焰を置き、見るからに悪を懲らしめる恐ろしい憤怒の形相をしています。明治23年に旧本堂の屋根の葺き替えの時、一人の職人が梁から落ちて本尊の腕に触れ、胎内から弘法大師御真筆と書かれた紙と共に1軸の不動明王像が頭

れ、これを寺宝として秘蔵しています。

また、本堂の左側にはお堂があり、内には十一面観音菩薩像、焰魔法王像、地藏菩薩像が安置されています。以前には大師堂と観音堂の2堂があり、それぞれに安置されていましたが、昭和42年に現在のお堂にまとめられました。中には昔の祭礼の山車も納められています。この山車は花鳥龍虎の彫刻のある見事なもので、文久2年(1862年)に作られ、明治42年(1909年)に秩父方面から運んだものだそうです。

山門は、大正12年の関東大震災で崩壊したので、東参道にあったものを表門として移されました。崩壊した古い山門は大久保彦衛門邸のものであったといわれています。

梵鐘は太平洋戦争の時に供出したため、昭和35年に現在の鐘が新造されました。

昭和20年の4月と6月に池袋一帯は空襲に遭い、辺りは降り注ぐ焼夷弾のために紅蓮の炎に包まれましたが、当時の境内だけは静寂を保ち、のち罹災者の救護に役立ちました。奇跡的に重林寺が焼け残ったことについて当時の住職は「全く御本尊不動明王の御加護と申す他なく、まざまざと其の御靈験を体験して感激した次第です」と書き記しています。(武蔵野史跡探訪会、昭和31年発行「重林寺案内」所収)(江頭)

## まちのカレンダー 池袋本町の行事あれこれ(平成11年8月~10月)

8月	9月	10月
1日 親和/工作大会(谷端川北)	1日 始業式	2日 宮元/池中井戸広場点検
2日 防災まちづくりの会	4日 二丁目/池二小井戸広場点検	3日 末広/町内清掃 池二小運動会
5日まで 親和/ラジオ体操(〃)	11日 氷川神社 祭礼	6日 中央/豊島清掃工場見学
7日 親和/池中井戸広場点検	12日 氷川神社 祭礼	10日 末広/町内清掃 四丁目/防災を兼ねた歩こう会
10日 宮元/役員会	15日 四丁目/資源回収	17日 末広/町内清掃 二丁目/資源回収・防災訓練
15日 二丁目/資源回収	19日 二丁目/資源回収	17日~18日 末広/役員親睦旅行
中旬 中央/青年部会納涼大会	21日 防災まちづくりの会	19日 防災まちづくりの会
18日 四丁目/資源回収	26日 ふくろ祭 やっさ踊り	20日 四丁目/資源回収
21日 宮元/緑陰子供会	末広/婦人部参加	24日 末広/町内清掃
28日 池二小おぼけ大会	文成小運動会	31日 末広/町内清掃 親和/災害避難訓練と炊き出し
29日 防災訓練(池袋中学校) 親和/チビッコ納涼大会 親和/クリーンキャンペーン	一丁目町会/敬老大会	日程未定 四丁目/運動会(文成小)



池袋本町  
**防災まちづくり**  
no. 15  
池袋区広報印刷物 H20-11-093  
平成11年7月31日発行

発行:池袋本町防災まちづくりの会  
豊島区まちづくり推進課  
問い合わせ先:  
(財)豊島区街づくり公社  
TEL 03-3981-1683  
編集協力:(株)エコライン

## 盛況「防災まちづくり祭」多彩なメニューで参加者過去最高!

「第3回池袋本町防災まちづくり祭」は、池袋本町公園で、5月8日の午前10時より午後1時まで開催されました。

今年の「祭」は、昨年からはまったスタンプラリーなどに加えて、地元の池袋第二小学校・文成小学校の児童による防災ポスターコンクールの出品・展示、公募による「井戸広場シンボルマーク」の授賞式、池袋中学校井戸広場開き、池袋消防署の協力による大型起震車での地震体験、チェーンソーなどの道具を使っての救助訓練コーナーなど、多彩なメニューで開催され、過去最高の参加者(一般来訪者約890名)によって成功のうちに幕を閉じました。当日、その前後ともに、陰で支えてくださった中央町会の役員をはじめ多くの方々の努力・善意・ご好意・ご支援・ご協力に感謝します。来年もまた、あってほしくない「その時」のための知恵にできるような「祭」を開催したいと思います。(青山)



## 2つの井戸がお目見え

本町地区に新たに2つの井戸ができました。とは言っても1つは既存の井戸の化粧直し、もう1つは池袋中学校の深井戸です。防災まちづくりの会では地区内の3つの公立学校に50mの深井戸を掘る計画を立てています。池袋中学校の井戸は池二小に引き続き地区内で2つ目の深井戸となりました。場所は学校の東側、擁壁の一部をとってつけられた階段の上にあります。5月8日に関係者にお集まりいただき、井戸開きが行われました。この井戸も池二小の井戸同様、地域の皆さんが自由に使える井戸です。植木や道路の水まきにどんどん利用してください。

もう1つの井戸は池袋本町四丁目にあります。防災井戸に指定されていた井戸を使いやすくし、災害時にも利用しやすくするために整備しました。化粧直しをしたのは、井戸の台座と流し、道路から入る路地の敷石です。明るく掃除しやすい井戸になりました。この井戸は所有者のご協力を頂いて整備されたものです。災害時には地域で利用できるようになりますが、普段はご迷惑がかわらないように配慮をお願いいたします。

つれづれに一言  
震災の時の火災のものすごさを経験した人も少なくなってきたと思います。おそらく神戸の震災の時もそうだったと思いますが、一地区で十数件の木造家屋が火事になりますと風を巻き起こし、風下では十メートル近くには寄ることもできません。あの頃は豊島区内には高や空地がたくさんありました。最近では木造家屋がびっしりと建っており、道路には大量のガソリンを積んだ自動車が増えておられます。地震発生時の時間帯によっては火災が発生する恐れがあると思います。豊島区は東京でも最も人口密度が高く、高齢化も進んでおられます。避難場所としての要件を備えていくだけでも恐ろしいと思います。考えただけでも何にいても防災まちづくりと初期消火の、日頃の訓練にもつと真剣に取り組まなければなりません。また、豊島テレビなどにお願ひし、日頃の心がけをPRして頂きたいと思っております。(野萩)